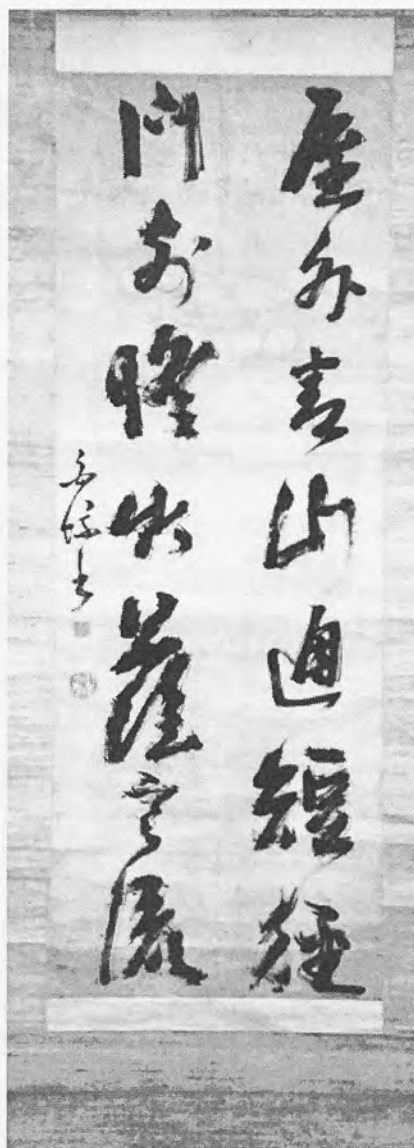


近世史料館新春展

「郷土人の墨蹟」展

ゆかりの人々のふであと



平成20年1月8日(火)～3月28日(金)

近世史料館展示室

書の楽しみ方について

「書は人なり」よく言われることですが、「書」には書き手の性格が出ると言われています。特に、その「書」がメモや書簡のように、人に見せるために書かれたものでないときには、より顕著に書き手の性格が出ると言われています。

良寛が嫌いなものとして歌詠みの歌・料理人の料理・書家の「書」の三つを挙げたのは有名な話です。古来、書だけの専門家ではなく、文人としての生き方にこだわりながら、詩・書・画・篆刻など幅広い芸術活動をしていた人達の「書」が評価されてきました。

川端康成は言っています。「書は老いとともによくなりこそすれ、悪くはならない」

臨書として古典に臨んだとき、筆を下ろすときの緊張感は誰もが同じで、この感動・感情を通じて故人と会話できるとも言われています。

墨蹟を通じて、ゆかりの人々の人柄を感じ取って頂ければ幸いです。

書体について

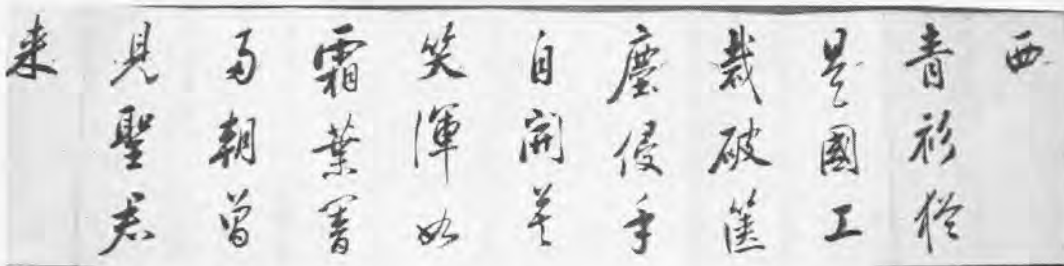
篆書 小篆と大篆がある。小篆とは大篆から脱化した字形で筆写に便したもの。隷書・楷書の創始以来碑銘や印章に多く用いられ、漢字の原義を知るに便利。大篆とは、周の宣王の時に作られたという「漢字」の書体。古文から出て小篆の前身をなすもの。(『広辞苑』による)

隷書 徒隷即ち身分の低い者にも分かりやすい書体の意。小篆の煩雑を省いて作った。漢代に装飾的になり、これを漢隷または八分と言って古隷書と区別したが、一般的に隷書と言えば漢隷を指すようになった。(『広辞苑』による)

楷書 隷書から転化した字形の方正なもの。真書、正書。(『広辞苑』による)

行書 楷書と草書との中間の書体。楷書の画をやや崩したもの。(『広辞苑』による)

草書 篆隷を簡略にしたもの。点画を略したもの。(『広辞苑』による)



市河米庵 行書

- 新井自我 享保10年(1725)江戸で生まれ、後に京都に移り朱子学を研究した。寛政3年(1791)前田治脩が明倫堂学頭(校長)として三百石で招いた。寛政4年5月14日明倫堂開講前に68歳で亡くなった。
- 山本基庸 通称源太郎・源右衛門、字は子遠、号を亀井庵・善淵堂等と称した。持明院基時に書を学び、持明院流を代表する書家と言われ、加賀藩の右筆(書き役)を勤め、「微妙公夜話」を著した。享保10年(1725)69歳で亡くなった。
- 室 鳩巢 万治元年(1658)江戸谷中の医者之家に生まれ、幼名を新助で後に直清と言った。木下順庵に学び、加賀藩に招かれて金沢長町に住み、鳩巢と号し学問を教え、「駿台雑話」等を著した。享保19年(1734)77歳で亡くなった。
- 上田作之丞 天明7年(1787)金沢に生まれ、本多利明に学問を学んだ。後に開いた塾には長連弘等の藩士が学び、後にこの人々が作之丞の考えを用いた政治を行った。元治元年(1864)77歳で亡くなった。
- 富田景周 延享3年(1746)に生まれ、小松城番等を歴任し、文政11年(1829)83歳で亡くなった。郷土の歴史を調べ、「越登賀三州志」「燕台風雅」等の多くの著作を残した。
- 江間万里 天保11年生まれ、幼名を三折と称したが前田慶寧の命により三吉と改めた。詩・画共に優れ、佐藤衝斎・山納蘭山とともに金沢三筆の一人と言われている。
- 榊原守典 通称三郎。字は子常。拙処・三痴・蘭所・夢松・一翁・逸翁・逸鷗・梅下書屋等と号し、「金城風藻」等を著した。明治8年(1876)87歳で亡くなった。
- 北方心泉 金沢木の新保真宗大谷派常福寺の僧。名は蒙、月荘・心泉または酒肉和尚と号し、俳号を小雨と称した。清(中国)に渡り篆楷を能くした。明治38年(1905)7月29日56歳で亡くなった。
- 前田慶寧 天保元年(1830)に生まれ、慶応2年(1866)前田家14代藩主になった。明治7年(1874)45歳で亡くなった。
- 室生犀星 明治22年(1889)裏千日町に生まれた。「純情小曲集」「亡春詩集」の詩集や「性に目覚める頃」「或る少女の死まで」等の小説があります。故郷金沢の風物・風景を美しく描いている。昭和37年(1962)73歳で亡くなった。

尾山篤二郎 明治22年(1889)安江町で生まれた。歌集として「清明」「平明調」を発表した。大伴家持の研究で日本芸術院賞を授けられ、宮中歌会始の儀の選者・召人に選ばれた。昭和38年(1963)74歳で亡くなった。

泉鏡花 明治6年(1873)金沢市下新町に生まれ、明治23年尾崎紅葉の門下に入り、「照葉狂言」「高野聖」「婦系図」等を発表した。昭和13年芸術院会員となり、昭和14年(1939)67歳で亡くなった。

北條時敬 安政5年(1858)金沢に生まれ、東京帝大理学部を卒業後、第四高等学校長・広島高等師範学校長・東北帝大総長・学習院長を歴任した教育者です。教え子に西田幾太郎・鈴木大拙がいる。昭和4年(1929)72歳で亡くなった。

小松砂丘 名を為一、画号を古越野人という。明治29年(1896)珠洲郡上戸村に生まれ、郷土が生んだ最後の文人と称せられ、昭和50年(1975)79歳で亡くなった。「明暗を香林坊の柳かな」の句碑が香林坊に建っている。

その他、林銑十郎(総理大臣)木越安綱(陸軍大臣)伍堂卓雄(商工大臣兼鉄道大臣)永井柳太郎(通信大臣兼鉄道大臣)中橋徳五郎(文部大臣)の書簡を展示しています。

展示品リスト

淳化帖 榊原守典写	16.96-21	
山本基庸	13.0-130	氏家文庫
室鳩巢 (燕台露珠)	091.0-3	稼堂文庫
北條時敬	k7-23	
郷土出身五大筆蹟	k7-120	
上田作之丞書	k7-181	
北方心泉	k7-300	
富田景周	k7-180	
徳田秋声	k7-214	
尾山篤二郎	k7-215	
泉鏡花	k7-216	
市河米庵	k7-255	
新井白蛾	k7-291	
前田慶寧	k7-325	
江間万里	k7-334	
榊原拙処	k7-336	
小松砂丘	k7-549	

*展示替により展示されていない物もあります